

日本語学習者の作文指導のための誤用分析

著者	堀井 恵子
雑誌名	武蔵野女子大学紀要
巻	32
号	2
ページ	17-30
発行年	1997-03-15
URL	http://id.nii.ac.jp/1419/00001349/

日本語学習者の作文指導のための誤用分析

堀 井 恵 子

はじめに

いわゆる留学生と呼ばれる大学に入った日本語学習者は、試験の答案、レポート、卒業論文等実際に「書く」ことを要求されることが急に多くなる。「話す」「聞く」「読む」力とともに、より自然で正確に「書く」力をつけたいと願う学習者が多いが、そのような学習者を指導する時、単に文を書かせて間違いをなおして戻すと言うだけでは、次に同じ間違いをしないようなところまで定着させるのは難しい。長年日本語教育に従事していると、学習者の誤用には共通のことが多いことに気づく。また、同じ学習者でも結構同じ間違いを繰り返していることが少なくない。そこで授業で共通の間違いを学習者に提示して、認識を促すことを何度か試みたが、どうもその場だけで終わってしまう感が拭えなかった。今回は対象を授業を現在している武蔵野女子大学の留学生に限定して、誤用分析をすることによってどこまでフィードバックすることができるかを考えてみた。

1 誤用分析の目的

日本語教育界において、誤用分析が精力的に行われ出したのは1970年代後半になってからであるが、その目的は二つあった。一つは誤用分析を日本語の文法体系の解明に活用しようとするもの。これには、かなりの成果が収められているが、もう一方の誤用分析を教材や教授法の開発に活用するものには、まだまだ目立ったものは見られない。最近では、第二言語習得のメカニズムに寄与すべき誤用分析のあり方も試みられている。系統的な誤用を生み出すメカニズムから考えると、母語の干渉は、誤用と言うよりは対照言語分析の範疇かもしれない。しかし、ここでは、学習者への指導上の効果を考えることを分析の目的としたい。

2 分析の対象

対象者

武蔵野女子大学平成7年度1年生のうち、日本語Ⅰを履修した留学生 12名

出身地	韓国	8名	中国	4
-----	----	----	----	---

入学時点で日本語能力試験1級合格程度から350点台までの日本語力を持っていた。

対象文

日本語Ⅰ後期レポート テーマ「日本語から見た日本文化」

レポート用紙3枚以上

日本語Ⅰ後期の授業では12回にわたり、一貫して「日本語」に関する文を読み、討論してきたので、内容的には書きやすいもののはずであった。レポートは引用などでなく、自分で考えたものを自分の言葉で書くように伝えた。量的に、単文レベルでは出てこない誤用をあげるにも、また個人別にまとめる上でもこの程度のものが必要であると考えた。なお、レポートの評価は、誤用に関係なく内容で評価した。

3 誤用の認定

アンリ・フレエが「正用(correction)、不正用(incorrection)の別は言語状態を研究する文法学者の最初に躓く障壁の一つだ。何を正しい言葉遣い(language correct)というのか、また誤用(faute)とはどういう意味なのか?」(『誤用の文法』小林英夫訳)といているように、何を「誤用」とするかには、いくつかの観点があるだろう。

佐治圭三1992では

「誤用例の研究会」では、「日本語を母国語とする成人であるメンバーの複数の人が誤りだと思ったり、訂正しなければ理解できなかったり、作者が意図していないと思われるにもかかわらず変な気持ちや不快な気持ちをおぼえる表現」を一応「誤用」として扱うことにしている。

とある。ここでは、複数の日本語ネイティブスピーカー（日本語教師ではないもの）に、「変だ」と思う点をあげてもらいそれをすべて「誤用」として分析した。

なお鈴木孝夫1960には、

ある語を用いることを許す「条件」は言語の外に存することもあり得るし、またその語に先行したりまたは後続する言語行為それ自身の「内」にあることもある。

とあるが、ここでは対象とした資料がレポートという性質上、筆者の意図は推察によるほかない場合が多いので、主に言語内条件を取り上げた。

4 誤用の項目

誤用の項目についてもいろいろな分類の仕方があるが、ここでは、従来の分類項目をベースに、対象とした武蔵野女子大学留学生に共通に見られるものにも焦点をおいて独自の項目をたてた。これは、この分析を今後の授業で役立てるためにも、有効であると思われる。なお、複数の項目にまたがるものは複数で表した。

a 構文—ねじれ文など構文として問題のあるもの。また、文全体として誤用と判断できるものや、文型の誤用、不必要な句が入っているものなどもここに入れている。

b 時制

- c 語彙 慣用句の間違いについてはc-1とする。
- d 発音から来る間違い
- e 母語からくる間違い 中国語の「的」をすべて「の」にしてしまうようなもの。
発音からくる間違いも母語の影響を受けていることが多いがここではそれは入れていない。
- f 助詞 とくに「が」と「は」についてはf-1とした。
- g 接続詞、または接続に関するもの。
- h 動詞の活用 とくに自動詞と他動詞についてはh-1、態の違いについてはh-2とした。
- i 表記・漢字
- j 原稿用紙の使い方、句読点、「」の使い方
- k 文体、また文末の処理の仕方もここに入れている。とくに「のだ」の使い方に関するものはk-1とする。
- m 敬語に関するもの。

このほかに誤用ではないが、当然使うべきものを使わないでいる「非用」もある。

5 誤用の原因

上記誤用の種類の中でも、d, e等は、誤用の原因も自ずから表しているが、もう少し本質的な原因について考えてみたい。

佐治1992では、外国人の誤用例を検討することによって出た反省として

- ①日本語教授法の問題—教え方が十分でなかった。
- ②学習者の身につけている言語、習慣、文化と日本のそれとの違い
- ③日本語内部の問題—まだ解明されていない部分

をあげているが、これはそのまま誤用の原因と考えてもよいと思う。学習者が自分がどのような間違いをなぜしたのかを認識することは、同じ間違いをしないために、ぜひとも必要なことであろう。また教師はこれらの原因を考慮に入れた指導を考えなければならない。

6 誤用の分析

日本語 I 履修者12名全員について分析を行った。アンダーラインを引いた部分が誤用で、() 内は筆者が正用と考えたものであるが複雑なものに関してはいくつかの正用が考えられることがある。(X) は不要を表わす。同じ間違いが何回もでてくるときは1と数えてその旨別記している。*は共通性が高いと思われるもの。

学習者A 韓国 誤用数 5 漢字の非用 1 あつまる (集まる)

- 1)その単語の意味は (が) 全然頭の中に浮かび上がらず困っていた。 f-1
- 2)入管での熱い経験が思い浮かって (浮かんで) . . . h
- 3)外国人には 1回、2回ぐらい (1、2回) は経験のありそうなことだと思う。 c

注 「1、2回」ですすでに概数であることはわかるので「ぐらい」は要らない。

4)5)そのため、私が「おビール」の「お」をわざとらしい言い方としてしてとらえてしまい、また抵抗感さえ覚えている(しまったの)かもしれない。 b, k-1

注 「さえ」があるため、「しまった」などをつけた方がすわりがいい。

ここでは説明のムードを使ったほうが自然。

この学習者の日本語力は相当高く、内容的にも豊かな文を書いている。2),3)については説明ですぐ定着するだろうが、1)については「が」と「は」の練習、4)については、「のです」の練習をした方がいい。

学習者B 韓国 誤用数 12 ただし「似て」の誤用は4回ある。
漢字の非用 1 ころみ(試み)

1)2)3)・・・。なので(そこで)、ここでは、食料品の名称から見られる日本語と日本人の特徴を重心(中心)として(に)考えてみることにする。 g、i、f

4)食料品の名称の特徴は(が)細かく分類されているという点である。 f-1

5)6)たしか(に)素材が同じで作り方が以って(似て)いても、・・・ c*, d

7)韓国人である私が(から)見れば、どうして似たような物にいろいろな名前をつけるのだろうかと思わざるを得ないのである。 f

8)言葉の意味をして(知って)いなければ・・・ d

9)食料品の多様性は、日本人の食生活の多様性、関心度などを表してくれる。(いる) k

注 一般的には文には授受表現は使わない。

10)いつも同じであることをお(強要)される生活から・・・ c

11)12)・・・食生活文化を活発(に)させる(する)のであろう。 f、h-1

学習者Bも、かなり総合的日本語力が高い。漢字が少し弱いのと、5),7)のように、促音が問題になる表記がときどきあるので、表記の練習、また助詞の練習は必要である。

学習者C 韓国 誤用数 10

1)2)・・・日本語のそれほど他人を悩ませる言葉で(X)はないと思う。「本音」を辞書から(で)引いてみると、・・・ f, f

3)気(基)本的な i

4)与(条)件下 i

5)京都のつけもの(ぶぶ漬け) c 注 日本の文化を知っているのだが、不正確だった。

6)行き来の(する)客 f

7)特々(独特)の文化 i

8)私なりにわざと(わざわざ)時間を作っていたのに、・・・ c*

9)建前を言う心の中には何が潜まれて(んで)いるのだろうか。 h-2

10)適当に話してその場だけ(X)を抜け出せば赤の他人だと言う・・・ f

学習者Cも漢字が弱い。助詞もそうだが、能力はあるのに正確さに欠ける学習者は、あまり練習を好まないことが多いので練習するよう説得が要る。8)の間違ひはよく見られるので、全体で練習した方がいい。

学習者D 韓国 誤用数 36 漢字の非用 1 ざんねん（残念）

- 1)私は3年ほど前（から）日本に来て日本語を勉強しています。 f
- 2)3)ひらか（が）なた（だ）けを覚えてきました。 d、d
- 4)一口（一言）も言えなかった私が、・・・ c
- 5)日本語を学べば学ぶほど実はどれだけ（どんなに）難しいかということに気づきました。
c
- 6)私たちは行く道を探していました（どうやって行ったらいいかわからなくて困っていました）。
a
- 7)8)こんな恥がなかったら（をかかなかったら）今のように日本語を言えない（使えなかった）だろうと思います。 c-1、c
- 9)10)いざが（か）やでアルバイトをする（している）とき毎日来ているお客さんがいて・・・
d、b
- 11)テレビでよく「あなた」という言葉を使っているのを考えながら、私が使った「あなた」は何の（とはどんな）差があるのかしら・・・ c
- 12)私たち外国人が日本に来て一番身に近い（身近だ）と思う物はたぶんテレビだと思います。
c
- 13)もちろん日本語を（が）わからなくてもテレビだけは熱心に見ましたが。 f
- 14)びっくりしたことは日本で浮気は当たり前の（だという）ことです。 a
- 15)浮気した男性た（だ）けを悪いとは言えないでしょう。 d
- 16)・・・と思う（の）ですが・・・ k-1
- 17)18)19)私が日本に来たことのもと（理由）は私の力を伸び（伸ばし）たかった（の）です。
c、h-1、a
- 20)21)22)夫が浮気して何も力を持（っ）てなかった妻は毎日なぎ（き）ながら子供たちとどうやって食（べ）て生きていくのかを考えながら・・・ d、d、i
- 23)「大人になったら絶大に（絶対に）仕事ができる女性になるぞ」と決心したことがあります。 i
- 24)25)自分の間違ひ（った）行動に対してなんにも感じない男性だったならば結婚生活は続け（られ）ないと思います。 h、h-2
- 26)27)日本の家庭に（X）もきんと（きっと）安定するでしょう。 f、d
- 28)コマ（一）シャル i
- 29)30)31)32)たまに（の）ストレス解消であれ（ば）な（ん）のこともならないと思います
がそれがく（せ）になったら大変なことだと思います。 c、f、d、d
- 33)日本に来る前テレビから（で）競馬のことについて宣伝するのは一度も見たことはありません。
f *
- 34)その人たちがいっしょうげ（け）んめい働いている人々を見ながらなんと思っ

か・・

d

35) 今日本の生活を3年ぐらい続けている(の)ですが、・・ k-1

36) その中でも今も一生懸命働いている日本国民たちが現在の日本を支えているので(X)は間違いだと思います。 f

学習者Dに多いのは、発音から来るとされる表記の誤りである。また、語彙の認識が正確なために、「わからないことはないが変」な文になってしまう。発音と表記の関係と助詞の練習をし、語彙を正確に認識するように指導する。

学習者E 韓国 誤用数 21

1) レポート用紙の題名を書く欄から書き始めている。 j

2) 日本語について論じること (X)は外国人なら一度ぐらい (X)はテーマとして文を書いたことがあるほどよくでる (X)タイトルである。 a

注 シンプルにできる文を複雑にしている。述語の「タイトルである」を生かすとうこういった文になる。これは、単語レベルではない、構文レベルの誤用。

3) 日本語に(X)は日本の国家や国民の専有物であり、外国人の理解の及ぶものでないと言う排他的態度もうかがわれている。 f

4) 5) 森本哲郎の「日本語表と裏」という本もそのような気持ちで書いた(書かれた)ものではない(だろう)か。 h-2、k

6) 7) まず言葉のあいまいさが外国人にどう受けられて (受けとられて)いるのかについて話(し)たいと思う。 c、i *

8) 9) ちょうどビデオで(に)とって何回も見たことがある (X)がでてきた言葉は私を感じたのとあまり違ってなかった。 f、a

注 ここでは、「ことがある」という経験を言う文型ではなく事実を言う文型の方がいい。

10) 適当にどうもを言えば大きく(あまり)問題はなかったが、・・ c

11) 部下はこうゆった (言った)。他にもう2回 d

12) 彼達 (ら)は各々の国の習慣によって行動したわけだからだ。 c

13) それでは何が問題でしょう(なのだろうか)。 k

14) それはまた後で考え (考えとし)てもう一つの例を挙げてみよう。 b

15) 決果 (結果) 2回 i

16) 国際化時代という現代には各国の人々が一緒に働く場合が多いのである (X)。 k-1 *

17) 大変危険なことではないでしょう (だろう)か。 k

18) 19) お互いに信頼しなければならぬのに言葉のややこしいところ(さ)のせいで、コミュニケーションに差し障りがあるとはいけないと思うのである (X)。 c、k-1

20) 心も表面に出さないとわからないのである (X)。 k-1

21) はっきり主張して欲しいのだ (X)。 k-1

学習者Eは文末の処理がまだうまくできないようだ。他の学習者にもよくあるが「のである」を必要以上に使っている。文でよく使われる「ないだろうか」の練習が必要である。

学習者 F 韓国 誤用数 16

- 1)2)ある言葉を用いるときに認識されることがが(は)国や文化によって違い(うので)、言葉は人間の認識や思考に影響力を持つものである。 f-1、c
- 3)日本で留学生として生活しながら感じたのは、・・・ということだ(だった)。 b
- 4)5)6)7)・・・よくわからない。例えば、・・・「ちょっと」と言って都合が悪いことを伝えたのである(X)。ところが、この「ちょっと」という言葉には相手を考えている日本人の気配りが入っているの(よう)である。この「ちょっと」という言葉は(X)日本人同士では相手を傷つけずにうまく断る方法としてよく用いられている(よう)である。k-1, k-1, a, k-1
- 8)昔から日本人は・・・伝承してきたのである(X)。 k-1
- 9)ここで私が経験したことをたとえと(述べると)、ある日、・・・ c
- 10)私の場合は、・・・「いつ」と聞いたらちょっと変な顔をされたそうだ(X)。 k
- 11)日本人は単なるあいさつのつもりで言ったのである(であろう)。 k
- 12)文字どおりに(の)意味(に)受け取ってしまうのではなく、・・・ f
- 13)14)15)16)確かに日本語には・・・あいまいな表現が多い。ところが(しかし)、その表現の中に(は)表れている(X)日本人は暖かな心を持ち、・・・人情の深い民族であることは(が)間違いな(と表れている)。 g、f、a、f-1

学習者 F も「のである」の使い方や文末の処理の仕方を十分に理解していないので、その練習が必要である。

学習者 G 韓国 誤用数 30

- 1)2)3)「あなたも私が話していることと同じこと(を)考え(てい)るでしょうね」と聞く(いている)ように聞こえる。 f、b、b
- 4)5)それにはそれぞれ意味があるでしょう(だろう)。日本語の表現は話し手に密着しているために、客観性に欠けるからだ(のではないだろうか)。 k、k
- 6)7)8)9)大和民族がほとんど全く(ほとんど/まったく)話すことができないというから(に)は?)ははっきり伝達されなければいけ(X)ならなかったでしょう(のではないだろうか)。 c、a、c、k、
- 10)徹的(徹底的) i
- 11)「曖昧さ」の拠ってきたところはおおよそこのような事情からだそう(X)と書いてあった。 k
- 12)13)14)15)16)17)18)19)20)日本は強い集団社会だから仲間はずれ(に)されると生きていくのが大変だから、自分の意見や感情を入れることはできなかったでしょう(のだろう)。たとえ自分自身の意見だけれども(でも)外(他)の人に聞いたとか、聞き手(に)(も)そうではないかとかえて(わざわざ)聞くのだろう。そこで(?)ひとつの単語に使い道は(が)様々で(X)ある。 f、k-1、c、c、f、c、g、f-1、f

- 21)五つは全部同じの(X)ように見えたが、そうではなかった。 f
22)23)24)25)使うのに(につれて)だんだんわかってきたが尊敬・可能は難しかった。(しかしこれは)日本人の場合(X)もけっこう戸惑っているらしい。とくに尊敬・可能のところに(では)。 c、a、c、f
26)27)「わ」は主に女性の話し手が「行くわ」というふうにするけれども、そこで(といって)男性は(が)使えないわけでない。 g、f-1
28)日本語は(を)曖昧というのも助詞を使って文章を略するからではないかと思う。
f
29)30)助詞を使わないで話(す)と日本語は曖昧だとは思わ(れ)ないでしょう。 i、h-2

学習者Gのレポートは引用文が多すぎる。その一方、引用部分をはっきり表示していない。また今までの学習者と比べて、1文の中の誤用数が多い。そのためか全体に何が言いたいかわかりにくいレポート文である。このように一応上級レベルにはいるのだが、正確さに欠けるため、誤用が多い学習者への指導も考えなければならない。時制の練習、文末処理の練習、助詞の練習がまず必要である。

学習者H 韓国 誤用数 38

- 1)私が好(き)な日本の言葉は・・・ i
2)3)4)人が落ち込んでいるとき、励ましなが(て)がんばれと言うのを見ているととてもすてき(だ)なと思われ(い)ます。 g、a、h-2
5)6)7)日本では(X)よく使う(われる)この言葉は私の国ではあまり使っ(われ)てない気がします。 f、h-2、h-2
7)8)9)日本人は悲しいことがあっても、またいいことがあってもそれをもっと(より)いいペース(状態)に導くためにがんばれとい(ながら)人々を応援するのではないでしょう(か)。 c*、c、g
10)11)・・・この何でもない言葉があるから(も)っと(より)団結心が固まる(強まる)のではないかと思います。 c、c
12)13)14)15)16)私は日本の若者としゃべれる(話す)機会が多いので一緒にしゃべってる(話している)と日本の若者は話し中(話の中に)英語をよく使って(い)るなと思われ(い)ます。 k(b)、k、c、k、h-2

注 このkは書き言葉と話し言葉の混同

- 17)何で英語を使わなければならない(の)だろうという疑問が生じました。 k-1
18)19)何でもヨ(一)ロッパやアメリカが優先(されるの)ではないかと思ひます。
i、h-2

20)21)22)23)24)ヨ(一)ロッパやアメリカはあこがれる(の)国に違いないでしょう。今海外旅行(者数)は最高で誰でも気軽に行ける事(こと)になっていますが、ほとんどの人々が第一で(に)買い物に行くのが一般的な現状だといえるでしょう。

i、f、c、i、f

- 25)26)27)28)29)30)31)海外旅行の本当の意味は何でしょうか。その国の人々とふれあったり一

般市民の生活を見たりするの（こと）ではないでしょうか。（しかし）自分が買いたいものだけ買ってさっさと帰る人は（も）少ないとは言えないでしょう。イタリアのバックじゃない（と）だめ、シャネルじゃないと気が進まないって（と）いう人は（を）よく見かけるこ（の）ではないかと思います。 a、g、f、f、f、f、a

注 このaは「こと」と「の」の文型の違いと考える。

32)33)34)35)日本語というのは最初は覚えやすいが、勉強すればするほど難しいと言われてい
ます。外国人にとっては漢字の読み方が一番難しいといわれている（います）が、私に日本
語のどんなところが難しい（か）と言わせれば、それは言葉の（意味の）使い方だと思いま
す。だ（た）例えば・・・ k、a、c、d

36)話し中（話しているとき）に相手が何を言っているのかわからなくなってしまいます。

c

37)38)私は第2母国語について正しく習い日本語というの（もの）が私にとって好きである
（なものになる）ようにがんばりたいと思います。 a、c

学習者Hも1文の中の誤用が多い。また、態、「ながら」、「こと、もの、の」の使い分け
の誤用が目立つ。これらは練習問題で誤用を防ぐことができるが、学習者G同様、詰めの甘
さの結果でもあるので、そのあたりの認識をさせることも必要。

学習者I 中国 誤用数 41

1)2)言葉というものは人間が社会生活を営むためになくてはならないものだ（ではないだろ
うか）。自分の考えや感情を相手に伝えるための手段なのだ（と思う）。 k、k

3)人の好意を受けたり、人に申し訳ないことをしたりしたら（ときは）いうまでもない。 a

4)外国人にとっては、これは容易ではないことだった（X）。 b

5)6)7)8)人々は（が）お互いに（を）理解したり、交流したり平和な暮らしをするために必要
であると私は一番（つよく）感じたことだった（X）。 f-1、f、c、k

*この「ことだった」がこの後2回でてくる。

9)つまり「あいさつ」と「敬語」を使う日本人は（が）本当に誠意を持っているかどうか
が問題なのである。 f-1

10)11)12)人間共存の社会では言葉づかい（言葉の使い方）が上手ならば、人間の平和的（な）
生活は（が）実現ができると思う。 c、e、f-1

13)言葉というもの（に）は社会問題を反映する面が見られる。 f

14)15)16)「翔んでる女」という言葉（に）は差別や束縛を脱して大いに羽ばたきたいという
日本女性の願望がこめられているのだ（X）。また「キャリアウーマン」が（は）職業意識
が強く仕事一筋という働く女性を意味することが多い。 f、k-1、f-1

17)18)19)20)21)22)23)例えば「超氷河期」とか「自己実現」という言葉（に）は日本女性の就
職（の）現状と価値観の変化に（が）見られる。不況の競争社会で（において）女性の自己
実現（へ）の願望は言葉の生まれ（が生まれていること）から確かなことだった（X）。

f、f、f、f、f、c、k

24)25)大量的（の）外来語・・・頻繁的（X）になって e、e

- 26)27)28)日本は(が)経済実(X)力をアップする(あげる)ことによって日本語を勉強する私たち外国人が増えてきた。 f-1、c、c
- 29)30)31)32)外来語ばかりを吸収するのは私から見るとも(っ)たいないという感じがした(する)。日本の現実と習慣的な言葉づかい(言葉の使い方)をぬきにして、いちがいに外来語の使用に(反)対することはできないと思う。 d、b、c、c
- 33)34)貿易金融の発展は(によって)日本が経済大国になると同時に自分の国の言語が世界の共通語になるため(の)努力が必要だと考えられる。 f、f
- 35)日本人は新しい社会モデルを追求する現代では(において)言葉の問題を真剣に考えなければならない。 f
- 36)37)38)39)40)41)日本人にとって日本語の諸現象は当たり前であっても、中国人としての私から見ると当たり前でないことは(が)多い。それに(一方)、日本人の言語生活から民衆(庶民)の心がわかり、社会の動きなどがわかっておもしろいと思う。経済(的に)成功の(した)日本人は世界の経済大国の位置を維持すると同時に(その)言葉が世界の共通語になるために努力しなければならない(のではないだろうか)。 f-1、g、c、c、g、k

学習者 I は文末処理がまだ十分にできず、断定が多く不自然になっているので、文末の練習が必要。また、「が」と「は」の誤用が多い。これらは癖になってしまいがちなので、多少時間をかけて矯正する練習が要る。

学習者 J 中国 誤用数 12

- 1)日本語は(が)言語的にどの語族に属するかについては定説がありません。 f-1
- 2)日本語は長期間比較(的)安定した共同体の中で形成されてきました。 c
- 3)他の国の人から見ると、日本人は自分の意見をはっきりいわないという誤解があるみたいです(ようです)。 k
- 4)昔から残った(受け継がれている)伝統的文化が・・・ c
- 5)・・・である(です)。 注 基本的に「です・ます体」で書かれているが、他にも2回「である体」が使われている。 k
- 6)日本のスポーツの中で(にも)相撲を始め、いろいろあります。 f
- 7)8)日本的な情念、倫理、義理の概念は英語に正しく翻訳すると(のは)困難(難しい)です。 f、c
- 9)10)・・・具体的(にいうと)例えば年賀状、歳暮、中元などということ(X)です。 c、a
- 11)12)日本に住んでから三年に(X)たっているけど、日本文化と国民性はまだわからないと思います。これからもっと日本人と接触し、日本のことをもっと深く了解(理解)していきたいと思います。 f、c

学習者 J は全体的に誤用が多くはないが、助詞の誤用が少しある。韓国からの学習者に比べ中国からの学習者の方が助詞に苦労しているようだ。

学習者K 中国 誤用数 54

1)2)3)試験は読解と作文(の)二つ(の)内容に分けられて(いて)、作文のテーマは・・

f、f、b

4)5)6)7)8)9)10)「やはり日本人は日本語(の)一つ(の)表現として敬語というものを大切にしている(の)だ。(だから)大学(の)入学試験に(で)も敬語の問題(X)が重視されてテスト問題としても出されたのだ」と感じた。f、f、k-1、g、f、f、a

11)12)13)14)毎日私は家から(を)出てよく気をつけて(気をつけて)いると敬語は(が)耳に入るケースが多いようだ(X)。f、c-1、f-1、k

15)16)17)18)19)20)21)「おはよ(う)ございます。本日(は)、秋葉原駅(を)ご利用いただきまして、・・・大変お(ご)迷惑を(お)かけしております(すが)、ご協力をいただきますようお願いいたします」のような(と)やさしい声で駅からの(お)知らせを伝えた。d、f、f、m、m、f、m

22)23)24)25)通勤トップ時間帯(ラッシュ時間)に・・・礼儀正しい敬語を聞いたときの(X)大勢の乗客は・・長い階段を上って協力をしたのだ(X)。これが(は)ここところの理解と慣用であろうか。それとも、・・c、f、k-1、f-1

26)27)28)ところ(と)ころで敬語を聞き、暖かい環境を与えられた(る)のだ(X)。

d、b、k-1

29)「島国」と言われる日本には(で)2000年の歴史の中から生まれて、伝えられてきたこの敬語は、日本語特有なものである。f

30)日本語の中には(X)敬語のすばらしさを感じた。f

31)話し手測(側)i

32)33)34)ここから見た(に見られる)敬語の定義が(は)非常に説明をしてくれたのだ(わかりやすい)。h-2、f-1、a

35)36)37)38)39)40)41)42)・・きつと長い間に(X)使いつづけてきたのだと思う。・・日本人は話というものは(を)大事にしているのだろう。日本人の(は)心の底でいつも自分自身の他に(の)何かのものを(に)遠慮して世の中でうまく生きていこうということを考えているのだ。なるほど(したがって)敬語は日本人の話をかける(する)一つの方法として長い間に(X)失われず、しかもずっと立派に伝えられているのだ。

f、f、f、f、f、g、h-1、f

43)44)狭い国の中で生きているため、・・ゆったりした気(霧)囲気を求める(ている)と私は考えているのである。i、b

45)46)47)先日大学の図書館に寄って(た時)、偶然に(X)「国語重要語辞典」という一冊の書(本)が目についた。b、f、e

48)49)中国と日本は文化的なもの(が)ごく近かったのだ(X)。f、k-1

50)51)52)53)54)・・もともと昔中国から流れてきた物語が多いだろうと本当に実字を感じた(実感した)。そして中国と日本(の)文化的(な)結びつき(へ)の関心を高く感じた(強く持った)。c-1、f、f、f、c

学習者Jのレポートは内容的には豊かだが、また一段と1文中の誤用が多くなっている。と

くに、助詞が抜ける。また時制の誤りが今までの学習と比べて多いので、その練習が必要である。

学習者L 中国 誤用数 54

1)2)3)日本人の言語使用、話し言葉を使う上での特性から日本文化は(が) いったいどのようなものであるかということを(が) 明らかに表している(されてるのではないだろうか)。

f-1、f、h-2

4)5)6)7)8)9)10)11)日本語の中(X)に(は) 男言葉(と)、女言葉(が) 二つ(X)分けて(分かれて) いる。女性には女性特有の表現法があり、男性には男性自分(だけ) の特徴的な(に) 表す方法があるようです。 a*、f、f、f、a、h-2、c、c

12)日本の学校で(名前の)呼ばれ方(呼び方)の習慣(X)は男性に対しては「くん」を使い、女性に対しては「さん」を使う。 c

13)14)15)16)・・男性の場合は「僕はりんごを食いたい。」という表現が(を) たびたび耳にしている(する)。これは男女の区別だろ(うが) といえ(X)、女性として自分の優しさを示している(の) だろうか。 f、b、a、k-1

17)18)日本語の中に(には) 大変便利なことば(が) たくさん活用されている。 a、f

19)例えば「先生」という言葉は目上の人で・・そんな相手に対して「先生」(X) はほとんど使用され、その範囲は広められていく。 a

20)21)・・使われる範囲は広まる一方であることは(を) 見逃さなければ(見逃しては) ならないのである。 f、h-1

22)23)24)日本の習慣(X)の中で(には) 「忌み言葉」がたくさんありそう(あるよう) です。 a、a、k

25)26)27)28)29)・・電話番号の中(X)に絶対欲しくない数字と思われ(てい) るが、けれども(X) 焼き芋屋が・・でちょうどいいじゃないと(ではないかと) 喜んでもらいたいかもしれない(えるかもしれない)。 a、b、g、k、k

30)31)32)33)使い方のむずが(か) しさ(を) いろいろな面で感じて(て) いた(る)。

d、f、d、b

34)35)O O様は(を) 願が(X) いいたいします。 f、i

36)37)38)39)日本に来っ(X) て2年半になる私は未だにうまく日本式(の) 電話(の) かけ方は(に) 慣れないのである。 d、f、f、f

40)41)42)日本の年寄りのあいさつの仕方(は) 非常に印象深いである(X)。電車の中に(で) こういう場面はよく見かけるでしょう。 f、k、a

43)その場で(を) 去っていかない。 f

44)45)46)礼儀正しいと思う上で(一方)、なんだかの(X) 別の気分になってしまっている(う)。 c、f、b

47)48)いかには(いかにも) 日本人というのは独特の人間であると外国人の私たちに見せてくれて(しめして) いる。 c、c

49)50)51)すぐその場で人と口論し、明理を明かし(黒白をつけ)、だから(したがって) 日本人のようにストレス(が) たまらないだろう。 c、g、f

52)やじうまは少く（X）ないようである。 i

53)54)日本人のよいところももの（X）たくさんこの身に感じている。これからもっと・・日本人のように日本語をこなしていこう（いけたらと）思っている。 c、c

学習者Lも助詞が抜ける。また「の中に」をよく使っているが、これはない方が自然。

7 分析結果から

以上のように分析を行ったが、項目別の割合は以下の通りである。

総誤用数	329
a 構文など	27 (8.21%)
b 時制	16 (4.86%)
c 語彙	67 (20.36%) うちc-1 慣用句 3
d 発音からくるもの	20 (6.08%)
e 母語からくるもの	4 (1.22%)
f 助詞	97 (29.48%) うちf-1 「は」と「が」 18 (5.47%)
g 接続詞など	13 (3.95%)
h 動詞の活用など	17 (5.17%) うち自動詞・他動詞 3 態 12 (3.66%)
i 表記・漢字	19 (5.78%)
j 原稿用紙の使い方、句読点など	1 (0.3%)
k 文体、文末表現など	45 (13.68%) うち「のです」に関するもの 19 (5.77%)
m 敬語に関するもの	3 (0.91%)

学習者KとLで総誤用数の33%を、f 助詞の46%を占めている。内容が動作の記述を述べるものではなかったのでb時制の誤用が少なかったのではないだろうか。当初仮定していたよりも、上級になると個別差が大きいうで、ある学習者はd発音からくる誤用が多く、ある学習者は語彙の誤用が多いといった具合である。総じて誤用の多いものはf助詞とk文末の処理の誤用が多くなっている。どの学習者にも多かったのはf助詞とc語彙の誤用である。

8 おわりに一作文指導へのフィードバック

今回の誤用分析は、対象を実際の科目履修者に限定したため、当該対象者には誤用の特徴が明確になり直接フィードバックできるのはもちろん、次年度にこの科目を履修する学習者にも比較的応用できるものが多いと思われる。作文指導はどの段階でもそうだがとくに上級では予想以上に個別差（くせ）が大きくなるので、最初の段階で長めの文を書かせ項目わけした誤用分析をして個別の特徴を客観的に認識させるのが有効であろう。また、ある程度共通に誤用の多い助詞、文末の処理などは、今回の分析データで問題集を作って、全体で、また、個別に練習させることが大切だろう。語彙に関しては類義の誤用が多いので、類義語の使い方の違いを練習問題形式で指導することを考えたい。その他にも分析結果からはまだいろいろな指導上のアイデアが浮かぶ可能性がある。今後はこの項目に基づく誤用分析とその研究を続けることと並行して問題集を作成し、さらに、話し言葉の誤用分析、ワープロ、パ

ソコンの使用と学習者の誤用の関係などについても調査・研究したい。

参考文献

- 佐治圭三『外国人が間違えやすい日本語の表現の研究』1992 ひつじ書房
水谷信子『実例で学ぶ誤用分析の方法』1994 アルク
森田良行『誤用文の分析と研究』1985 明治書院
遠藤織枝編『日本語教育』1995 三修社
日本語教育学会編『日本語教育事典』1982 大修館書店